



最後は全員でガンパローを三唱しました

近のたびに護岸決壊の被害が出る地点。漁業に限らず農業、交通にも影響する」と指摘しました。

その後、天草市の「松山開発」（松崎忠一社長）が建設計画の概要や経緯を報告。「住民の要望を聞き、誠心誠意対応したい」と市民に理解を求めました。これに対し、「市産廃阻止市民会議」の塚田三知雄会長が2万9352人分の反対署名名簿を松崎社長に手渡し「署名の重みを受け止めてほしい」と訴えました。

同会議主催の総決起大会では、水俣病問題に取り組み、久留米大学教授（環境訴訟）で弁護士馬奈木昭雄さんが「産廃処分場はいらない」と題して講演。処分場の危険性を指摘し「国の基準を守れば安全というわけではない。住民全員が一致団結して反対しなければならない」と呼び掛けました。

産廃処分場説明会と阻止市民決起大会

9月30日、三角町手場の八代海沿岸で計画されている産業廃棄物最終処分場建設に関する説明会と、建設に反対する市民総決起大会がウイングまつばせであり、市民ら約1400人が参加しました。

説明会は市が主催し、環境衛生課が処分場問題の経緯と国道266号南側の不知火海沿岸に広がる建設周辺の地形や産業、交通事情などを説明。「現地は、台風接

通「もらい湯」初体験!? 通学合宿スタート

9月26日、親元を離れた子どもたちが集会所・公民館などで宿泊・炊事・洗濯・通学などの共同生活をする通学合宿が、「まちや（小川町商店街）」と郡浦地区市民館（三角町）で行われました。これは、子どもたちの生きる力の育成や地域との交流、地域の教育力の活性化を目的とするもので、市内の6カ所で9月から11月にかけて3泊4日の日程で行われます。

初日の「まちや」では、小川小学校の4～5年の児童23人とボランティアの小川工業高等学校生徒や周辺住民など関係者が集合し、開校式が行われ、式後、子どもたちは夕食のカレーライスのお手伝いなど、班別活動を行ないました。



まちやで販売のお手伝い

交 園児たちが事故防止の声掛け 交通安全フェア



市民みんなで安全安心のまちづくりに努めましょう!

宇城地区交通安全協会（境洋治会長）主催の秋の全国交通安全週間に伴う「交通安全フェア」が9月29日、イオンモール宇城バリューでありました。

オープニングセレモニーでは、白百合保育園の園児による和太鼓演奏と河江保育所の園児によるマーチングがあり、その後、園児たちは4班に分かれ、出入口で買い物客に交通安全グッズや手作りの首輪を配り、事故防止の声掛けをしました。

また、時速5キロの衝突を体験できる機械を使ったシートベルト着用徹底の呼び掛けや、安全運転啓発ビデオの放映があり、白バイ、ミニカーの展示や、腹話術人形による交通安全教室などもありました。

山名さん里帰りコンサート

9月29日、ウイングまつばせで、松橋町豊崎出身のソプラノ歌手・山名光子さん（旧姓：沖崎＝東京在住＝）の初めての里帰り公演「山名光子&橋本篤彦 ふるさとジョイントコンサート～カンツォーネによせて～」が開かれました。

松橋高校から鹿児島短大音楽科声楽コースを修了後、カンツォーネを学び、「太陽カンツォーネコンクール（クラシック部門）」では特別賞を受賞。現在は、東京都内のライブハウスなどでコンサート活動を続けておられます。バリトン歌手の橋本篤彦さん（山形県出身＝東京在住＝）とともに「サンタ・ルチア」「マンマ」「帰れソレント」など南イタリアのナポリ地方で古くから歌い続けられているカンツォーネナポリターナを中心に披露しました。

大きな声援と拍手を受け、山名さんは「念願の郷里でのコンサートであり、ウイングまつばせという素晴らしい会場で歌えることができ、とても幸せです」と笑顔で話していました。



カンツォーネを披露する山名光子さん

DVDを宇城市に寄贈



阿曾田市長にDVDを寄贈する守田さん

インダストリアル研修館「ビデオ講座」（守田信一代表）のメンバーが、9月15～16日に行なわれた第62回熊本県民体育祭宇城地域大会の状況をビデオで撮影、コピーしたDVD約30セットを映像資料として、市に寄贈されました。

9月25日に市長室を訪れた守田信一さん（松橋町）は、「いろいろな会場に足を運んだので、発見が多く、楽しみながら撮影しました」と話していました。

阿曾田清市長は「きれいに、そしてこんなに早く編集されたことに驚いています。有効に活用させていただきます。ありがとうございます」とお礼を述べました。

南国ムードいっぱい! 心うき宇城ハワイアンフェスティバル

「ハワイアンフェスティバル in 九州」が9月23日、三角西港の浦島屋前芝生広場でありました。三角西港築港120年記念事業の一つで、鹿児島、長崎、宮崎、福岡などのハワイアンバンド9団体（うち市内2団体）とフラダンス8団体（うち市内2団体）が出演しました。

常夏のハワイを思わせる絶好の晴天の下、つめかけた延べ1,500人の参加者は、魅惑のハワイアンサウンドと色鮮やかな衣装と首にレイを身につけた女性たちのフラダンスに魅了され、「南国ムード」を楽しみました。

参加者からは「目の前に海が広がり、素晴らしいロケーション。とても気持ちがよかったです」との声が聞かれました。



バンド演奏に合わせてフラダンスを披露するダンスチーム